

# マサバ (太平洋系群) ①



## ■ マサバ太平洋系群の現在の状況

マサバは日本周辺に広く生息しており、本系群はこのうち太平洋側に分布する群である。

図1 分布図

分布の中心は日本の太平洋側。  
産卵場は日本の太平洋南岸。

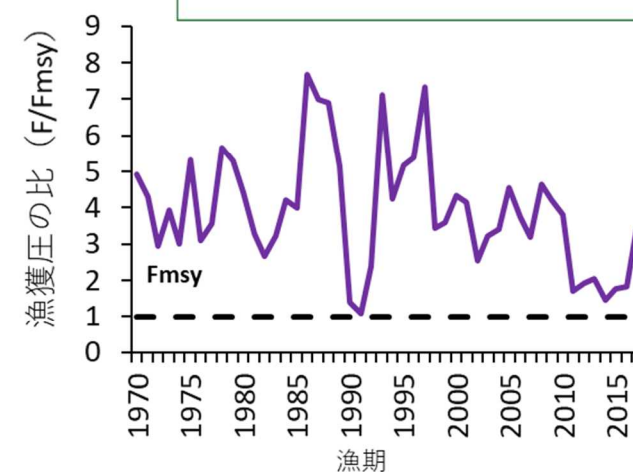
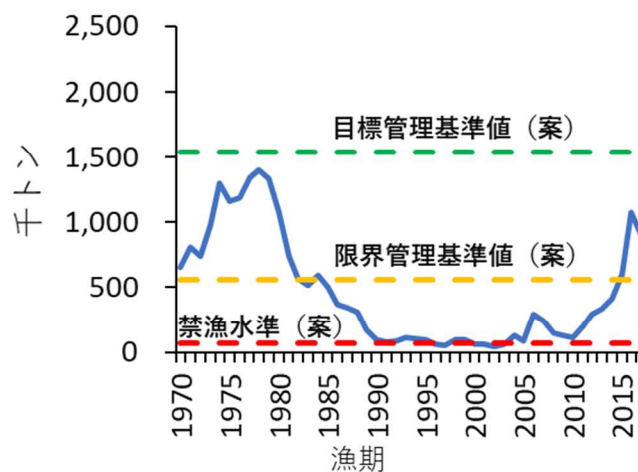
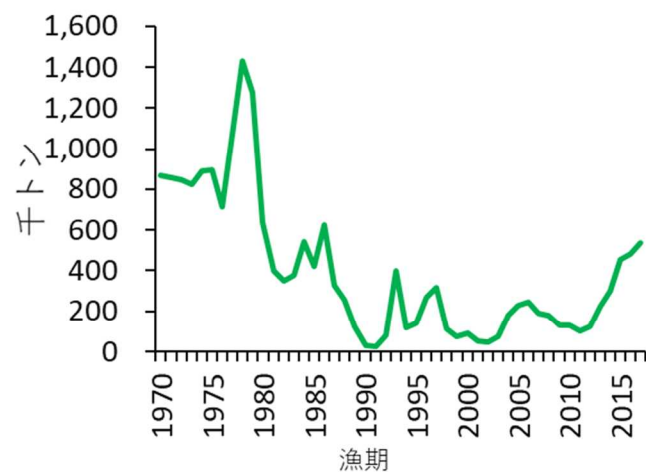
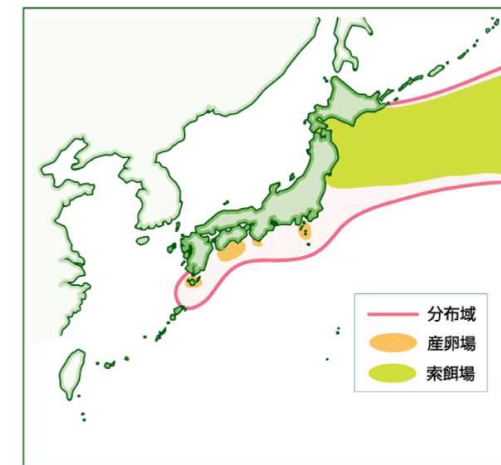


図2 漁獲量の推移

漁獲量は、1970年代は高い水準で推移したが、1980年代に減少し、1990年代および2000年代は低い水準で推移。2013年漁期以降は増加傾向を示し、2017年漁期の漁獲量は538千トン。

図3 親魚量の推移

親魚量は、1990年代、2000年代は低い水準で推移。2017年漁期の親魚量は目標管理基準値案を下回るが、限界管理基準値案は上回る。

図4 漁獲の強さの推移

漁獲圧 (F) は、1970年漁期以降のすべての漁期年において最大持続生産量を実現する漁獲圧 (Fmsy) を上回っている。

# マサバ (太平洋系群) ②

## ■ 管理基準値案と漁獲管理規則案

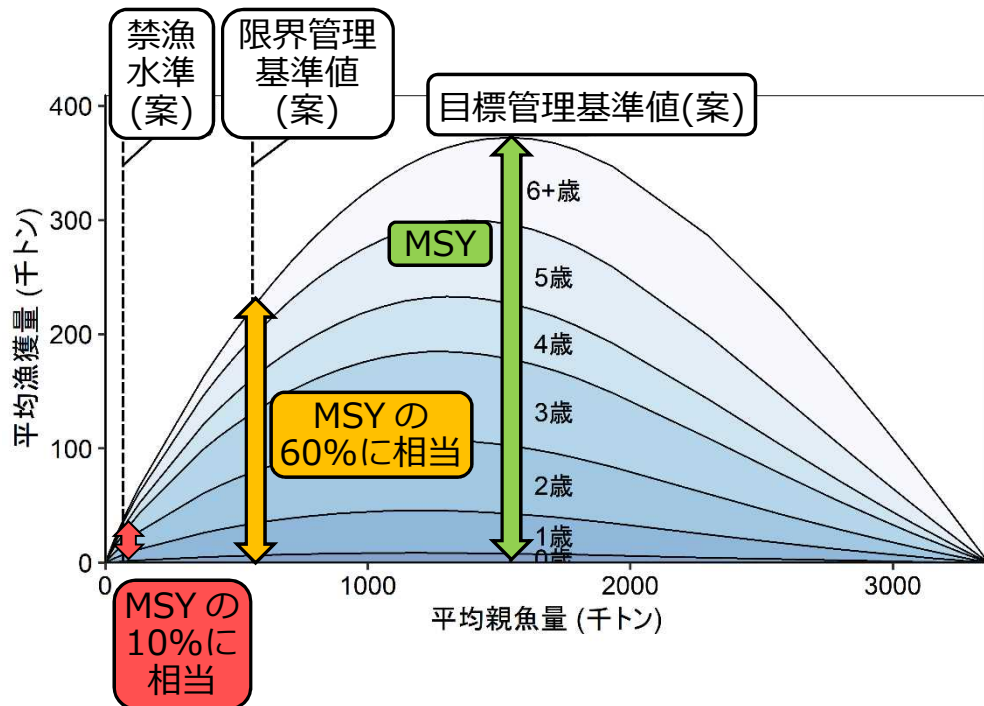


図5 MSYと管理基準値案の関係

本系群の目標管理基準値としては最大持続生産量 (MSY : 370 千トン) が得られる親魚量 (SBmsy) を、限界管理基準値としては MSY の 60% が得られる親魚量を、禁漁水準としては MSY の 10% が得られる親魚量を提案する。

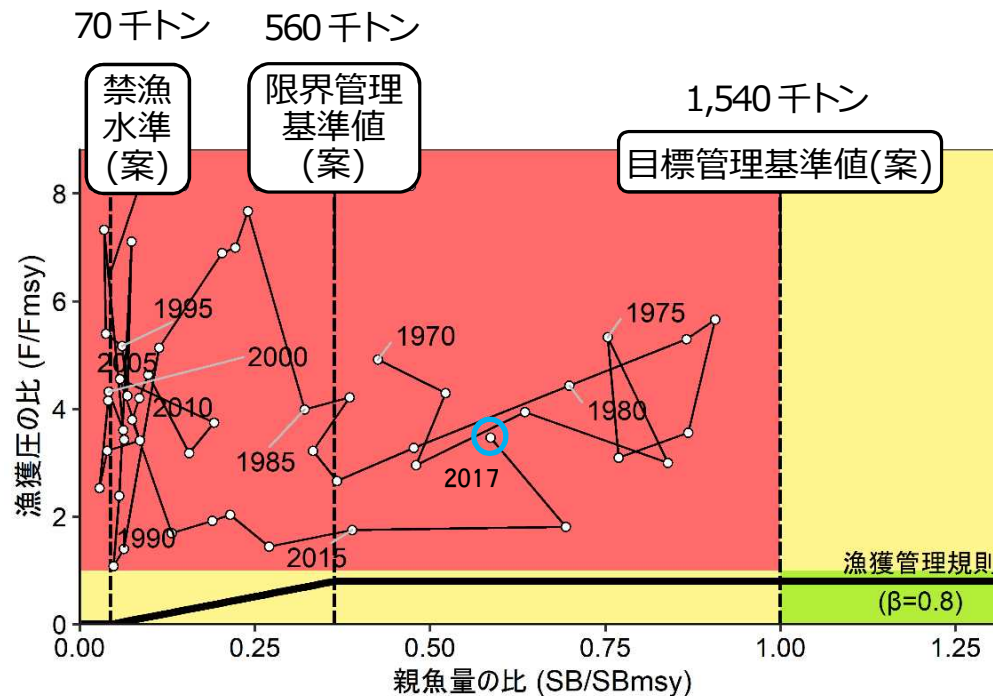


図6 神戸プロット (神戸チャート) と漁獲管理規則案

本系群は、1970 年漁期以降のすべての漁期年において、漁獲圧 (F) は  $F_{msy}$  以上・親魚量は  $SB_{msy}$  未満の領域 (図の赤い範囲) にある。βを 0.8 とした場合の漁獲管理規則案 (※) を黒い太線で示す。2017 年漁期のプロット (点) は黒い太線よりも上側に位置するため、2017 年漁期の F は、当該漁獲管理規則案に基づく F を上回っている。

※βや漁獲管理規則案については「検討結果の読み方」を参照

# マサバ (太平洋系群) ③

## ■ 将来の親魚量と漁獲量の予測

漁獲管理規則案（現状の漁獲圧は参考）に基づいて算出

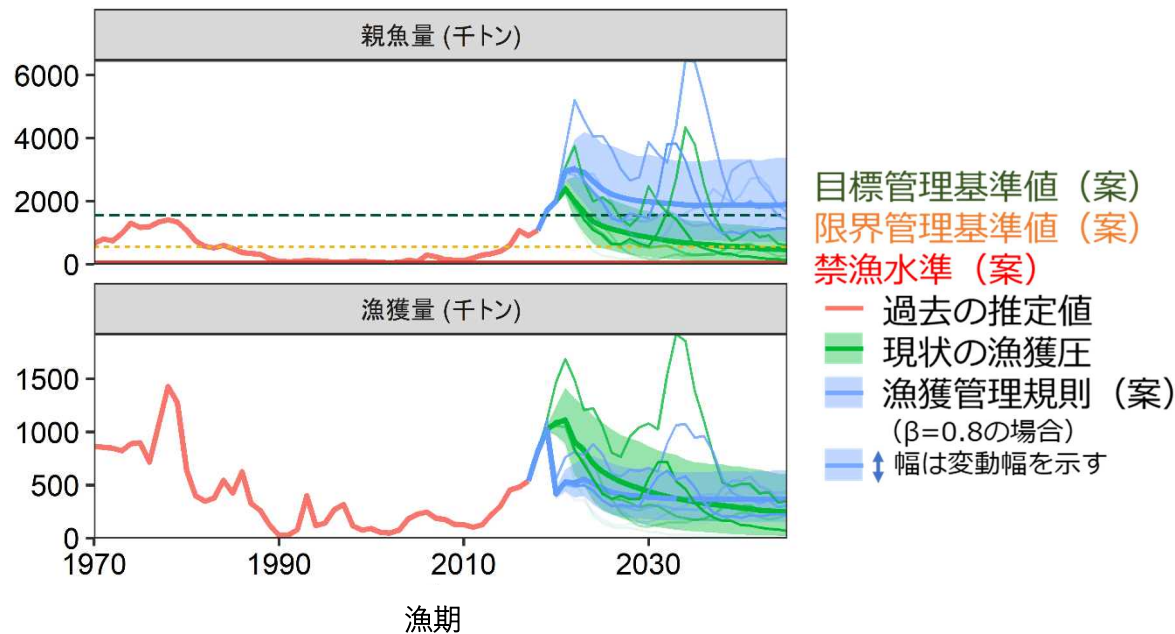


図 7 親魚量と漁獲量の将来予測

$\beta$ を 0.8 とした場合の漁獲管理規則案に基づく、親魚量は、良い加入が期待されている 2016～2018 年級群の加入により増加した後、平均的には緩やかに減少する。 $\beta$ が 0.9 以下の漁獲管理規則案であれば、10 年後に目標管理基準値案を 50%以上の確率で上回る (表)。

表 管理基準値案を上回る確率と 2020 年漁期の漁獲量

$\beta$	10年後 (2030年漁期) に親魚量が限界管理基準値 (案) を上回る確率 (%)	10年後 (2030年漁期) に親魚量が目標管理基準値 (案) を上回る確率 (%)	2020年漁期の漁獲量※ (千トン)
1	96%	48%	514
0.9	97%	53%	466
0.8	98%	57%	417
0.7	99%	62%	368
0.6	99%	67%	318
0.5	100%	71%	267
0.4	100%	76%	215
0.3	100%	82%	162
0.2	100%	87%	109
0.1	100%	91%	55

※最新の資源評価により更新されるため、将来の生物学的許容漁獲量(ABC)を確定的に示すものではない

シミュレーションによる 2020 年漁期の漁獲量は、今期の資源評価結果によりアップデートされます。